

平成29年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	行政機関における政策の企画立案業務等の実践的学習	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	経法学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	山沖義和 (経法学部)	
取組の目標	① 受入機関の中核業務を模擬的に体験させ、受入機関との連携を高め、研修内容を充実させる。平成29年度は、特に行政機関における政策の企画立案業務や予算要求業務を実体験する機会の提供を開始する。 ② 受入機関と緊密な協議を行うことによって教材の整備を進める。 ③ 「信州大学モデル」として発信し、受入機関・他大学に働き掛けることによって全国展開に結び付ける。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	① 従前の松本税務署・長野労働局・長野県警・松本市役所において模擬体験を実施し、その際、前回の反省を踏まえ内容の充実を図った。例えば、税務実習では、内偵調査・税務調査・滞納処分の全てを一つの事案に仕立て、一貫した流れとして模擬体験させることとした。また、労働法務実習では、従来の労働災害事案に代えて、現在、最もホットな話題となっているブラック企業への立入調査・是正勧告等を取り上げた。 ② 上記①でも触れた通り、研修内容の充実に努めるとともに、教材の整備を進めた。また、実習先の開拓を兼ねて、後述する高松出張に合わせ、四国財務局長・四国厚生支局長と意見交換を実施した。 ③ 10月に開催された十二大学経済学部長等懇談会(香川大学も参加)において「信州大学モデル」として本取組を紹介し、12月に香川大学経済学部の教員3名が松本税務署において実施した実習を見学したところ、平成30年度以降に同様の取組を行うこととなった。信州大学モデルとして確実に実施に移してもらうべく、同大学からの要請を受け、高松国税局長・香川労働局に対して働き掛けを行った。また、1月には駒澤大学の要請を受け、東京国税局長に対して同大学における実施に向けた調整を介したところ、今夏、実施することとなった。	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった	(評価理由) ① 政策企画実習については、観光振興予算について財務省主計局主査からも評価されるアイデアもあり、結果としてではあるものの、平成30年度予算に盛り込まれたアイデアもあった。 ② 税務実習では内偵調査・税務調査・滞納処分の一連の対応を経験することによって税務行政の全体像を示し、研修内容を充実した。この効果もあり、長野県庁・松本市役所職員も実習を受ける内容となっている。 ② 昨年度に引き続き、税務実習・労働実習について教材の保存を行うとともに、政策企画実習の教材についても整備を図った。 ③ 全国展開については、さらに2大学が実施に向けて準備を始めた。 ④ 平成29年度における政策企画実習の取組みが評価され、政府広報が主導して実施している車座ふるさとトークについて、全国初となる大学生を対象とした試みを本学部で実施することとなった。 (今後の展望) ① 本校教員が全ての実習に立ち会い、実習後に受入機関との間で研修の充実について協議を行う予定である。 ② 新しい実践系科目の創設に向けて模索する。 ③ 毎年度、教材を整備し、内容の充実を図っていく予定である。 ④ 全国展開に向けて引き続き普及活動を実施する。